

抄 録

結核専門雑誌

The American Review of Tuberculosis. Vol. XXXVII, No. 4.

1. 慢性肺臓疾患ノ機能診断

Benjamin H. Schlomovitz A. B. Thompson and L. Grant Glickman: A Functional Test in Chronic Pulmonary Disease (ウイスクンシン州ミルウォーキー市州立老癈兵病院)

硅酸鹽沈著症ニヨル肺臓ノ結締織化ハ X 線のニ三ツノ程度ニ分ケラレテ居ル。之ヲ肺臓機能ヨリ觀ルニ、第一期ノ病症ニシテ合併症無キ場合ニハ機能變化ヲ來サズ、又第三期ノ病症ニ於テハ合併症ノ有無ニ係ラズ機能ノ失調カ存在スルト一般ニ認メラレテ居ル。其處テ問題ニナルノハ第二期ノ病症テアルカ、現在迄ノ處テハ呼吸機能ヲ精密ニ判定スベキ方法ノ無イ事ニ遺憾ノ點ガアツタノデアアル。

著者ノ行ツタ検査方法ハ一定ノ運動ノ直後ノ酸素消費量増加ヲ測定スル方法デアツテ、運動トシテハ 10 分度ノ啞鈴ヲ兩手ニ 1 個宛持テ床ヨリ肩ヘ舉ゲ降シスル事 25 回、時間ハ 45 乃至 60 秒ト規定シタ。

先ヅ健康人ヲ検査シテ見ルト運動後ノ酸素消費量増加ハ 6 分ニシテ終ル。此關係ハ甲状腺機能異常(亢進及低下)患者、永續性速脈者及ビ運動後速脈恢復ノ遅延スル健康人ニ於テモ同様テアル。此變化ヲ多クノ人間ニ就イテ比較スルニ、個體全體トシテノ價ハ身長ト體重トニ大キナ關係ガアルノテ比較ニナラナイ。其處テ體表面一平方米ニ就イテノ價ヲ取ツテ比較シタノデアアル。

硅酸鹽沈著症ノ患者ニ就イテハ大體次ノ様ナ結果ヲ得タ。

a) 第一期患者ハ健康人ニ比較シテ酸素消費量増加ガ稍ク少ナイ。

b) 心臓血管系統ノ合併症ヲ伴ハヌ第二期患者ハ酸素消費量増加ノ度が明ニ低下スル。但シ前者ヲ伴フ者ニ於テハ健康人ニ近付ク。

c) 第三期患者ハ健康人ニ等シイカ、或ハ少シ低イ

増加ヲ示ス。

肺氣腫患者モ亦心臓血管系統ノ合併症ヲ伴ハヌ場合ハ増加度ガ低ク、伴フ場合ハ健康人ニ等シクナルカ、之ヲ凌駕スル。

一般ニ心臓血管系統ノ疾患ヲ持つ者ニシテ肺臓結締織化ヲ伴ハナイ場合ハ健康人ニ比シ酸素消費量増加ガ遙ニ大デアアル。處カ斯カル患者ニシテ硅酸鹽沈著症或ハ肺氣腫ノ如キ肺疾患ガ合併シテ居ル場合ニハ酸素消費量増加ガ健康人ノ夫レニ近付クノデアアル。

其處テ著者ハ最初ノ目的ニ反ツテ、硅酸鹽沈著症ノ第二期患者ノ機能失調ヲ判定スベキ方法トシテ本法ヲ推稱シテ居ルノデアアル。(宇多野 内藤抄)

2. 齒齦及頬ノ結核

George G. Martin and Sheldon W. Koepf: Tuberculosis of the Gums and Cheeks. (ニューヨーク州パツフェロ市パツフェロ大學醫學部及齒科醫學部及パツフェロ市立病院醫科及齒科)

口腔ノ結核性潰瘍ハ肺結核ノ合併症トシテ時ニ見ケラレルモノデアアル。ルビシハ 1.11%ニ見ルト言ツテ居ル。著者ハ過去 10 年間ニパツフェロ市立病院ノ結核科ニ入院セル患者 3835 名ノ内ニ齒齦及頬ノ結核ヲ 5 例發見シタ。率ハ 0.26%トナル。性別ヲ見ルニ全部ガ男子ヲ女子ハ 1 例モナイ。何レモ肺疾患ノ合併症トシテ發生シテ居ル。内 3 例ハ深イ潰瘍テ上顎及上顎竇ニ迄及シテ居リ、1 例ハ癌ヲ思ハセル様ナ廣範圍ノ硬結病竈テアリ、残りノ 1 例ハ普通ノ口腔結核ニヨク見ラレル表在性ノモノデアアル。

2 例ニ於テ各 30 回以上ノ検査ニモ拘ラズ喀痰中結核菌陰性デアツタ事ハ血行性發生論ニ都合ノ良イ根據デアラウ。銳利ナ形ニナツタ齦齦ガ病竈發生ノ重要因子トナツタデアラウト思ハレル者ガ 1 例アル。此例テハ直接ノ菌侵入ガ考ヘラレルガ、1 年以上ノ觀察中 1 回モ喀痰中ニ結核菌ヲ發見シナカツタ事ニ注

意シナケレバナラナイ。又 3 例ニ見出シタ骨ノ破壊ヲ伴フタ深在性ノ潰瘍ハ直接感染ヨリハ血行性發生ニ因ルト考ヘタ方ガ穩當デアラウ。頰齒根管カラノ感染モアリ得ル譯ダガ、之ヲ積極的ニ立證スル所見ハ無カツタ。齒ノ剔出ガ肺結核ヲ進展サス様ニ影響シタト思ハレタ場合ガ 1 例アル。然シ著者ノ考トシテハ此際用ヒタ麻醉法ノ如何ノ方ガ大キナ關係ヲ持ツデアラウト言フ。

深在性潰瘍ノ發生機轉トシテ鼻腔カラノ進展ガ考ヘ得ラレルガ、本例テハ何レモ之ヲ除外出來ル。

疼痛ハ著明テナイ。少クトモ初期ニハ大キナ意義ヲ持タナイ。

總體的ニ見テ齒齦及頰ノ結核ハ肺結核ノ合併症トシテ喉頭結核程恐シイモノデハナイ様ニ著者ハ考ヘテ居ル。(宇多野 内藤抄)

3. 肺動脈血栓。6 例ニ就テノ臨牀病理學的研究
Jaime F. Pou and Robert Charr: Thrombosis of Pulmonary Artery. A Clinicopathological Study of Six Cases.

4. 頸部淋巴腺結核。診療所患者 6000 名ニ於ケル本症ノ顯在型、潜在型及陳久型ノ狀況

Brian C. Thompson: Tuberculosis of Cervical Lymph Nodes The Incidence of Its Manifest, Latent and Obsolete Forms in Six Thousand Dispensary Patients.

5. 肺結核治療ニ於ケル兩側橫隔膜神經切斷
Robert V. Cohen and George Willaner: Bilateral Phrenic-Nerve Interruption in the Treatment of Pulmonary Tuberculosis.

6. 合衆國結核死亡率ノ男女ノ差違
C. C. Dauer: Sex Differences in Tuberculosis Mortality in the United States (Department of Preventive Medicine, Graduate School of Medicine and School of Medicine, Tulane University of Louisiana, New Orleans, Louisiana.)

材料ハワシントン調査局人口統計課ノ未發表ノ調査資料ニ仰イテ居ル。調査ノ範圍ハ合衆國全州ヲ包含シ、期間ハ一般ニハ 1931 年ヨリ 1934 年迄デ、テキサス州ノミハ 1933 年ヨリ 1934 年迄ナル。但シ比較檢討ニハコロラド、アリゾナ及ピニユウ・メキシコハ除外シタ。蓋シ之等ノ州ニ於テハ常住者テナイ結核患者ノ死亡ガ少カラズアルガ故デアル。

結核死亡率ニ就テ男女ノ差ト地方ノ差トノ關係ヲ見ルト東北部及西部ノ地方テハ女子死亡率ニ比シテ男子死亡率が高い。一方東部ノ中心地方テハ女子死亡率ノ方が高いノデアル。各々ヲ年齡上カラ見ルト、男子死亡率ノ高いノハ中年及老年者(30 歳乃至 55 歳及ソレ以上)ノ高死亡率ニ起因シ、女子死亡率ノ高いノハ老年者ノ高死亡率ニ起因スル事ガ明ニ窺ハレルノデアル。東北部地方ノ男子結核死亡率ガ比較的高イノハ此地方ガ都會化工業化サレテ居ル事ニ因ルモノデアラウ。男女死亡率ノ差違ニ對スル他ノ因子ハソウ重大ナモノデハナイ。(宇多野 内藤抄)

7. 實驗的結核ニ對スル太陽光線ノ影響

A. C. Ukil and S. R. Guhe Thakurtha: The Influence of Sunlight upon Experimental Tuberculosis (From the Tuberculosis Inquiry, Indian Research Fund Association, All-India Institute of Hygiene and Public Health, Calcutta, India.)

著者ガ本實驗ヲ企テタ動機ガニツアル。其一ハ印度ニ於テ 6 乃至 10 歳ノ少年少女ノ間テ生活環境ガ同一デアル時代ニハ「ツベルクリン」陽性率が等シク約 30% デアルガ、少女ガ家庭内ニ閉テコモル年齢以後ハ俄然女子ノ率ガ増シ、16 歳乃至 20 歳ニナルト女子罹患率ハ男子ノソレニ倍スルニ到ル事實デアル。ソレニハ印度テハ家畜ノ結核ガ他國ニ比シ稀ナ事實デアル。之等ノ要因ガ熱帶地方ニ豊富ナ日光ニアルノデハナイカト言フ想定ノ下ニ本實驗ニ著手シタノデアル。實驗動物トシテ黒色ノ海狸ヲ用ヒ、之ヲ四群ニ分チ各群ニ結核菌ヲ注入セル者ト對照トヲ作ル。第 1 群ハ「プレフス」青「ガラス」ヲ以テ濾過セル日光下ニ、第 2 群ハ直接日光下ニ、第 3 群ハ自由ナ運動ヲ許シツ、直接日光下ニ曝シ、第 4 群ハ日蔭ノ通風ヨキ室ニ容レテ置ク。日光ニ曝スニハ最初ハ 1 日 5 分間トシテ 4 日毎ニ 5 分ヲ増シ、最高 2 時間ニ達セシメル。實驗成績判定ノ方法トシテハ體重ノ増減、生存期間、剖檢時發見サレタ病竈ノ數ト擴ガリ及其組織學の所見ヲ選ンダ。

實驗ノ結果ヲ通覽スルニ籠ノ中ニ容レラレタ者ノ方ガ自由ニ運動ヲ許サレタ者ヨリモ體重減少ノ割合モ多イシ、生存期間モ短イ。籠ノ中ニ容レラレタ海狸ハ結核以外ノ原因テモヨク死亡スルノテ生存期間ハ結果ノ判定ニ大キナ役目ヲ演ジ得ナイ。

病竈ノ擴ガリト性状ヲ以テ判斷ノ材料トスルト、濾過

光線ニ曝サレタ動物ノ方ガ疾患ノ發展ニ對シテ比較的強イ抵抗ヲ示ス。戶外テ自由ニ運動ヲ許サレタ動物ハ生存期間コソ最モ長カツタガ、病竈ハ前者ヨリ擴カツテ居タ。但シ籠ノ中テ濾過セヌ光線ニ曝サレタ者ヨリハ良好ナ経過ヲトツタ。之ハ太陽光線ノ強サガ冷イ新鮮ナ空氣ニヨツテ緩和サレルノテアラウ。著者ノ考察ニ從ヘバ本實驗ノ缺點ハ各群動物ノ環境ノ溫度

ヲ完全ニ等シクナシ得ナカツタ事デアル。

患者ニ對シテ豫防竝ニ治療ノ目的ニ太陽光線ヲ利用スル場合ニハ、其日其日ノ變化及季節ノ變化ヲ考慮シテ多種多様ノ臨牀的條件ニ最適ノ使用量ヲ決定シナケレバナラナイ。就中最モ重要ナ點ハ熱線ノ障碍作用ヲ除去スル事デアル。(宇多野 内藤抄)

The American Review of Tuberculosis. Vol. XXXVII, No. 5.

1. 肺臟外初感染結核ノ發生率

Henry C. Sweany and William L. M. Martinsen: The Incidence of Extrapulmonary Primary Tuberculosis.

文獻ヲ見ルト肺臟外初感染結核ノ發生率ハ報告者ニヨリ可ナリノ差違ガアル。著者ハ132例ノ剖檢ニ於テ初感染ノ侵入門戸ヲ定メル爲ニ石灰化病竈ヲ研究シテ次ノ様ナ結果ヲ得タ。

1. 肺臟及ビ肺門淋巴腺ノミヲ侵入門戸トスル初感染ハ73.5%デアルガ、之ニ他ノ處ニモ初感染竈アル者ヲ加ヘルト79%デアル。
2. 胃腸系ノミニ初感染竈ヲ有スル者ハ8.3%デアルガ、同時ニ他ノ處ニモ侵入門戸ヲ證明シ得タモノヲ加ヘルト12.9%デアル。
3. 頸部或ハ頭部ノ初感染ハ1.8%デアルガ、同様ニ他ノ處ニモ侵入門戸ノ有ツタモノヲ加ヘルト4.5%トナル。
4. 肋膜初感染ハ3例(2.3%)、證明シ得ベキ局所障碍ナクシテ肝臟及ビ淋巴腺ニ潜在性病竈ヲ持ツテ居タモノハ3例(2.3%)、疑ハシイモノガ3例(2.3%)石灰化ヲ發見シ得ナイモノハ7例(5.3%)デアツタ。
5. 肝臟及ビ脾臟ニ血行性石灰化初感染ヲ示シテキルモノハ30.6%デアツタ。(宇多野 小川抄)

2. 結節ノ退化性變化ニ關スル研究

Henry C. Sweany, Alma E. Tillotson and Vincent Kozierek: Studies on the Retrogressive Changes of Tuberculosis.

結節ハ結核ノ病理的現象中最モヨク知ラレタモノノ一テ、1761年ノ Morgagni ノ之ニ關スル記載以來非常ニ多數ノ報告ガアル。然シ囊内結節ニ就テハアマリ知ラレテキナイ、又記載モサレテキナイ。著者ハ William Snow Miller ノ方法(Amer. Rev. of Tbc. 1912, 3, 65)テ古イ初感染結節ヲ研究シ、結節ノ古サ

ヲ起ル變化ハ種々ノ因子、即チ死滅シタ組織ノ自家融解或ハ酵素性消化、此消化産物ノ石灰化及ビ是等ノ要素ガ吸收ヤ骨化ヲナス身體ノ循環液ノ近クアル事ニ由ルモノデアルト言フ事實ヲ示ス様ニ思ハレル。

結節ノ外側ノ周圍ニアル血管ハ結節囊ヲ貫通スル様ニ思ハレル。而シテ食菌細胞ノ附著ニヨルカ、石灰化ト囊トノ間ニ酵素ヲ遊離スルカシテ結締織細胞及ビ石灰質ノ融解ヲ起ス。次イテ毛細血管ガソノ作ラレタ細胞間空隙ニ入込ミ、ソノ内テ分歧スル様ニナル。同時ニ結締織原細胞モ入込ミ、是等ノ空間ノ壁ノ内側ヲ覆フ所ノ骨纖維組織ヤ骨組織ニ變化スル様ニナル。此過程ハ石灰化乾酪ノ遺物ヤ恐ラク骨組織スラガ除カレル迄續ク。

稀ナ場合ニハ結締織原細胞ガ毛細血管ト無關係ニ入込ミ、「カルシューム」ヲ溶ス様ニ思ハレル。然シ此現象ニ就イテハモット研究セネバ何等言フ事ハ出來ナイ。(宇多野 小川抄)

3. 治療の氣胸期間中ノ結核性播種

William A. Zavod: Tuberculous Dissemination during Therapeutic Pneumothorax.

4. 家兔ノ結核菌血症 1. 非「アレルギー」性動物ノ菌血症

Jacques P. Duchaine: Tuberculous Bacillaemia in Rabbits. 1, Bacillaemia in Nonallergic Animals.

5. 家兔ノ結核菌血症 2. 「アレルギー」性動物ノ菌血症

Jacques P. Duchaine: Tuberculous Bacillaemia in Rabbits. 2, Bacillaemia in Allergic Animals.

6. 喀痰試験ノ浮泛方法

C. Richard Smith: The Flotation Method of Sputum Examination.

Lange 及ビ Nitsche ハ種々ノ液狀炭化水素例ヘバ「ベンチン」類ガ水浮游液中ノ結核菌ヲ分離シ得ル事

ヲ知ツテ、彼ハ 1909 年此方法ヲ初メテ喀痰試験ニ應用シタ。

彼等ハ喀痰ヲ「アルカリ」ヲ液化シタ水ヲ加ヘ、次イテ「リグロイン」ヲ加ヘテ強ク振盪シテカラ放置スルト上方ニ「リグロイン」ガ分離スル。此「リグロイン」ト下方ノ水層トノ境界線ノ直下ノ浮渣中ニ結核菌ガ發見セラレル事ヲ見タ。此方法ニヨリ直接塗抹法テ陰性デアツタ多數ノ喀痰中ニモ抗酸性菌ヲ證明出來タ。

ソレ以來喀痰試験ニ色々ナ變法テ此 Lange 及 Pottenger ノ原則ガ應用サレタガ、著者ハ次ノ様ナ方法ヲ試ミタ。著者ノ方法ハ Pottenger ノ方法ノ原則ニヨツタモノデアルガ、先ヅ 3 日間ノ喀痰ヲ 8「オンス」容量ノ廣口瓶ニ集メ、喀痰ト同量ノ 0.5% 苛性曹達液ヲ加ヘテ機械テ 5 分間振盪シテカラ 55°C ノ水槽中ニ 30 分間放置シ、瓶ノ底ニ集ツタ崩壞物ヲ「ビベット」テ棄テル。次ニ其試験物ニ蒸留水ヲ加ヘテ約 200 cc トシ、ソレニ 0.5 乃至 1 cc ノ「キシロール」ヲ加ヘテ 5 分間振盪後、半時間餘放置スルト上部ニ「クリーム」様ノ層ガ形成セラレル。コノ「クリーム」ヲ護謨球附ノ「ビベット」テ吸上ゲテ、ソノ「ビベット」ヲ 45 度ノ傾斜テ架ニ置クト澄ンダ液ガ生ズルカラ、其液ヲモトノ瓶ヘ返シ、「クリーム」ノミヲ硝子板ノ上ニ滴下シ直径約 1 cm ノ汚點ヲ作り、蓋ヲシタ 60°C ノ水槽上ニ置イテ乾燥スル。乾イタラソノ汚點ノ上ヘ又「クリーム」ヲ滴下シ再度乾カス。斯ル操作ヲ 3 乃至 6 回繰返シタ後「エーテル」ヲ洗ヒ、水槽上テ 10 分間「カルホル・フクシン」液ヲ染色シ、次イテ 1% 「ピクリン」酸水溶液ヲ重複染色ヲ行フノデアル。

著者ハ 260 名カラ得タ 1248 例ノ喀痰材料ニ就イテト記ノ方法ト直接塗抹方法トヲ同時ニ行ツテ試験シ、次ノ様ナ結果ヲ得タ。

1. 塗抹方法テ結核菌陰性デアツタ材料中ノ 14%、又同ジク塗抹標本テ陰性デアツタ患者ノ 19% ガ浮游方法テ陽性トナツタ。
2. 10cc ノ喀痰ニ 0.000001mgm ノ結核菌ヲ加ヘタ様ナ少數ノ結核菌ヲ含ム喀痰カラテモ浮游試験テ結核菌ヲ證明出來ル。
3. 沈澱操作ヨリモ浮游操作ノ勝レテ居ル事ハ塗抹標本上ニ結核菌ガ一樣ニヨク配布サレテキル事及ビ塗抹ガ綺麗ナ事デアル。
4. 浮游試験ハ喀痰中ニ極僅少ノ結核菌ヲ有スル場合ノ診斷及ビ豫後ニ大ナル價値ガアル事ガ證明サレタ。殊ニ虚脱療法ヲ行ツテ「レントゲン」像ガ頼リトナラヌ様ナ場合ニ價値ガアル。(宇多野 小川抄)

7. 結核治療ニ於ケル臨牀的觀察點ト公衆保健的觀點

F. M. Pottenger: The Clinical versus The Public Health Point of View in the Treatment of Tuberculosis.

8. 氣胸療法増強トシテノ肋腔内陽壓
Geoffrey Edsall Positive Intrapleural Pressure as an Aid to Pneumothorax Therapy.

9. 黒人大學ニ於ケル結核感染
Paul B. Cornely and E. H. Allen: (Tuberculous Infection in Negro Colleges.)

10. メキシコ人ト白人トニ於ケル肺結核治療成績ノ研究

Fred R. Harper: A Study of the Results of Treatment of Pulmonary Tuberculosis in Mexican and White Patients.

11. ジャマイカニ於ケル結核調査

E. W. Flahiff: A Tuberculosis Survey in Jamaica.

The American Review of Tuberculosis. Vol. XXXVII, No. 6.

1. 鳥型結核ニ關スル研究

A. B. Crawford: Studies in Avian Tuberculosis. (From the Animal Disease Station, Beltsville, Maryland, Bureau of Animal Industry, United States Department of Agriculture)

I. 豚ノ全身性結核ニ於ケル鳥型菌

Avian Tubercle Bacilli in Generalized Disease in Swine

1917 年ニ合衆國畜産工業局ノ牛型結核撲滅計畫ガ其緒ニ付イテ以來、豚ノ結核モ他ノ一般家畜ノ結核ト共ニ減少スル事ト思ハレタ豫想ハ裏切ラレテ、屠畜當局ノ檢察ニ從ヘバ事實殆ンド變化ガ無イノデアル。一方最近豚ノ結核ト鳥型菌トノ關係ガ論議サレル様ニナツテ來タ爲此處ニ本研究ヲ開始シタノデアル。即チ南ダコタ、ミネソタ、ウイスコニン、オハイオ及アイオワノ各州ニ於テ屠畜當局ノ檢閲ニヨリ全身性結核

ト判定サレタ豚カラ採取セル 36 標本ヲ集メテ検査シタノテアル。送ラレタ標本ハ脾臓ト淋巴腺(主トシテ氣管枝或ハ縦隔竇腺)テアツタ。菌型検査方法トシテハ動物實驗、感染動物ニ對スル鳥型竝ニ哺乳類型「ツベルクリン」検査及培養鑑別ヲ選ンダ。其結果ハ 36 標本ノ内 21 ハ鳥型、15 ハ牛型テアル事ガ明ニナツタノテアル。(宇多野 内藤抄)

II. 家兎竝ニ海狸ニ對スル鳥型菌ト牛型菌トノ比較毒力試験

Comparative Virulence of Avian and Bovine Tubercle Bacilli for Rabbits and Guinea Pigs.

以下前篇ニ引續ク實驗テアル。實驗方法トシテハ標本脾臓カラ剔出シタ結節材料 1 g ヲ 5—6 cc ノ蒸餾水浮游液トシ、滅菌「ガーゼ」テ濾過シ、前述 36 種ノ各々ニ就イテ 2 頭宛ノ海狸及ビ家兎ヲ使用シ、海狸ニハ 1 cc ヲ皮下ニ、家兎ニハ 0.5 cc ヲ靜脈内ニ注射スル。牛型菌注入海狸ハ 2—3 週ニシテ局所病竈ガ明ニナリ、2—4 ヲ月以内ニ全身結核テ死亡スル。

鳥型菌注入海狸ハ輕度ノ局所病竈ヲ形成スル者トソレサヘ形成セズ者トアル。死亡セル者ハ 1 例モ無イ。牛型菌注入家兎ハ大部分 43—99 日ノ間ニ結核ニ因ツテ死亡シ、平均生存日數ハ 70 日餘テアル。

鳥型菌注入家兎ハ 99 日迄ニ 42 頭ノ内 9 頭ノミガ死亡シタ。其他實驗結果ヲ綜合スルニ鳥型菌結核ハ牛型菌ノ夫ニ比シテ著シク變化ガ輕イ。其他牛型菌結核ノ好發部位ハ肺臟テアリ、鳥型菌結核ニ於テハ肺臟ノ病變ハ輕微テ、主病竈ノ所在ハ色々ニ變ルノテアル。

一方參考實驗ニ於テ標本ノ單位容積内ノ菌數ヲ比較スルニ大體ニ於テ鳥型菌ノ方ガ大テアル事ガ明ニサレタ。故ニ上述ノ毒力ノ差ハ菌量ノ差ニ起因スル者テハナク、菌ノ毒性其者ノ差ト考ヘラレルノテアル。

(宇多野 内藤抄)

III. 海狸竝ニ家兎ニ於ケル鳥型牛型兩菌種ヲ鑑別スル感作法

Sensitization Method of Differentiating Avian from Bovine Infection in Guinea Pigs and Rabbits.

1927 年ニ著者ハ鳥型及哺乳類型菌ノ鑑別ヲ感染動物ニ對スル各ノ「ツベルクリン」反應ニ依ツテ行ヒ得ル事ヲ發表シタ。本篇ハ前篇ニ續ク本法ニ依ル鑑別ノ報告テアル。

方法トシテハ海狸及家兎ニ結核豚組織浮游液注射後

6 週間ノ後、其各ニ就イテ鳥型菌及哺乳類型菌「ツベルクリン」ヲ以テ皮内反應ヲ試ミ判定ハ 48 時間後ニ行フ。家兎ニ於テハ反應モ強クナク且必ズシモ常ニ同型「ツベルクリン」ニ對シテノミ特殊的ニ反應スルトハ限ラナイノテ、家兎ハ本法ニハ不適當テアル。之ニ反シ海狸ノ結果ハ甚タ明瞭ニ鑑別可能ナルヲ示スノテアル。即「ツベルクリン」注射後 24 時間テハ必ズシモ明ナ差ハ認メ得ナイガ 48 時間經ツト同型「ツベルクリン」注射部位ニ丘疹ヲ生シ中心部ハ黃色壞死ヲ來シ、之ヲ圍ンテ境界鮮明ナル紅斑ヲ見ル。異型「ツベルクリン」注射部位ニモ同様ノ發疹ヲ見ルガ、面積小、紅斑弱ニシテ中心部壞死ヲ見ナイ。但兩方ノ同型「ツベルクリン」反應ヲ比較スルト鳥型菌ノ反應ハ牛型菌ノ反應ヨリ弱イ。之ハ海狸ニ對スル兩菌型ノ毒性ノ差カラ考ヘテ當然デアラウ。

次イテ著者ハ鳥型菌ニ對シテ先天性免疫ヲ多分ニ有スル海狸ガカクモ明ナル感作用ヲ受クル事ニ興味ヲ覺エ、之ニ要スル最少鳥型菌量ヲ實驗的ニ求メタ所、大體ニ於テ 0.0001mg. カラ 0.00001mg. ノ間デアツテ、1 例テハ 0.000001 mg. テ感作シ得タ者ガアツタノテアル。大體ニ於テ 1 mg. ノ培養菌中ニ 10 億ノ菌數ガアルトシテ、海狸感作ニ必要ナル鳥型菌數ハ 10000 トナル譯テ、一方前述豚組織浮游液ノ塗抹標本テ菌體ヲ證明シ得ナイモノモアルノニ比バルト、組織内菌ハ培養菌ニ比シテ感作能力ガ強イノテハナイカト言フ問題ガ起ルガ、之ハ組織内ニ見出サレル顆粒型ニヨツテ説明シ得ルト著者ハ考ヘテ居ル。

最後ニ同時ニ兩型ニ感染セル例ノ鑑別ガ本法ニ依ツテ可能ナリヤヲ實驗的ニ檢討シテ居ルガ、其結果ハ單一感染ノ場合程明確テハナイガ、兩型「ツベルクリン」反應共ニ中心部壞死ヲ呈シ、哺乳類型「ツベルクリン」反應ノ方ガ他ニ比ベテ僅ニ強イト言フ事ニヨツテ判定シ得ルト言フ。(宇多野 内藤抄)

IV. 鳥型結核菌ニ由ル人類感染可能ノ程度

The Possible Role of the Avian Tubercle Bacillus in Infection in Man.

種族免疫ハ絶對的ノモノテハナク寧ロ相對的ノモノト言ハネバナラス。即或種族ガ或結核菌型ニ對シテ抵抗ガ強イト言フ事ハ其種族ノ個々ノ者ガ總テ強イト言フ意味テハナイ。異型ノ菌ニヨル結核ガ多クテ却ツテ同型ノ菌ニヨル結核ガ少イト言フ様ナ事ノ要因ノ一ツトシテ感染機會ノ多少ト言フ事ヲ考ヘネバ

ナラナイ。我來國テハ北中心部ノ諸州ニ於イテ鳥型結核が猖獗ヲ極メ、此地方ノ或郡區ノ調査ニヨルト鳥類ノ80%が感染シテ居ル。其處此地方ノ人間ニ對シテ鳥型結核菌が危險性ヲ持チハシナイカト言フ問題が起ル。

感染ノ機會トシテハ生卵或ハ半熟ノ卵ヲ食スル事、鳥型菌結核豚ノ腸詰ヲ生テ食スル事、及鳥類ニ常ニ接觸スル事等が擧ゲラレル。

其處テ此地方ノ人類結核ノ菌型ヲ調査シタ所、鳥型菌ニ原因スル者ハ非常ニ少イ事カ立證サレ、現在ノ所大キナ問題トハナラナイ事ガ分ツタノテアル。其原因ハ人類ガ鳥型菌ニ對シテ非常ニ抵抗力ガ強イカ、感染ノ機會ガ大レ程多クハナイカデアラウ。後者トスレバ今後鳥類結核が益々多クナレバ、其危險ハ必ズシモ無視スベカラザルモノガアラウ。(宇多野 内藤抄)

2. 人體組織液ノ結核菌ニ及ボス影響

Nell Hirschberg and Lloyd Arnold: The Effect of Human Tissue Juices on Tubercle Bacilli.

(イリノイ州シカゴ市イリノイ州大學醫學部細菌學及公衆保健科並ニミカエル・リーズ病院)

結核感染ニ對スル組織ノ感受性ノ差異ノ存在ハ諸家ニヨツテ認メラレテハ居ルガ、其原因ハ今尙未解決ノ問題デアル。本篇ハ結核菌ノ發育ヲ阻止或ハ促進スル物質ガ人體諸臟器組織中ニ存在スルカドウカヲ決定セントセル實驗デアル。

人體組織液トシテハ外傷テ急死セル健康人臟器ノ水抽出液ヲ用ヒ、培養基トシテハシーバートノ無機液體培養基ヲ使用スル。即前者ヲ後者ニ種々ノ濃度ニ混ジル。對象菌トシテハ活動性肺結核患者ノ喀痰ヨリ分離セル人型菌ノ浮游液ノ1滴(約5000萬ノ菌ヲ含ム)ヲ各培養基ノ液面ニ擴散セシメル。組織液ヲ採取セル臟器ハ腦、心臟、腎臟、肝臟、脾臟、膵臟、甲狀腺、肺臟及血液デアル。之ニ加フルニ市販ノ乾燥組織、組織抽出物及分泌物ヲモ同様ノ實驗ニ供シ、血液ハ全血液、血清及血漿ヲ分ケテ實驗シタ。

以上ノ各液ハ豫メ脂肪分解酵素ノ存在セヌ事、結核菌ニ對シ補體結合反應ヲ呈セヌ事、空中球菌ニ對スル分解酵素ハ血液及血清中ニ僅ニ認ムルモ、其他ニハ存在セヌ事、pHハ6.5カラ7.0ノ間デアル事ヲ實驗的ニ確メタ。

本實驗ノ結果ヲ簡單ニ述ベルト、

a. 阻止作用ヲ認メヌ者: 肺臟、血液

b. 相當阻止スル者: 肝臟、脾臟

c. 著シク阻止スル者: 腎臟、腦髓、膵臟、甲狀腺、心臟
即チ此結果ハ臨牀的ニ知ラレテ居ル各種臟器ノ對結核抵抗力トヨク一致シテ居ルノデアル。而モ一方是等ノ場合殺菌作用或ハ細菌分解作用ハ認メ得ナイノデアル。又此發育阻止作用ノ要因ハ脂肪分解酵素ヤ其他ノ分解酵素ニアルモノテモナク、又組織ノ抗體、補體、榮養物質或ハ血液量ニ存スルモノテモナイ事ヲ明ニナシ得タ。然ラバ其要因ハト言フニ、現在ノ所、非特異性ノ或者ト言ヒ得ルノミテアル。

(宇多野 内藤抄)

3. 結核統制

Robert E. Plunkett: Tuberculosis Control.

4. ジャマイカ州キングストン市ニ於ケル結核感染

C. W. Wells and H. H. Smith: Tuberculous Infection in Kingston, Jamaica.

5. 人工氣胸療法中ノX線透視

Louis Cohen and John V. Blady: Fluoroscopic during Pneumothorax Treatment.

6. 全肺容量及ビ其細別ニ對スル年齢ノ影響

Nolan L. Kaltreider, W. W. Fray and H. Van Zile Hyde: The Effect of Age on the Total Pulmonary Capacity and its Subdivisions. (From the Department of medicine, School of medicine and Dentistry, University of Rochester, and the medical Clinic of the Strong memorial and Rochester municipal Hospitals, Rochester, New York.)

38歳カラ63歳ニ互ル50名ノ健康男子ニ就イテ肺全容量ト其細別ノ測定及X線寫眞的測定ヲ試ミタノデアル。先ヅ用語ノ定義ハ次ノ通りトスル。

遺留空氣 residual air: 最強呼吸時ニ肺臟内ニ殘レル空氣量

肺中容量 mid capacity: 正常呼吸時ニ肺臟内ニ殘レル空氣量

肺活量 vital capacity: 最深呼吸時ヨリ最強呼吸時迄ニ排出サレル空氣量

肺全容量 total capacity: 肺活量ト遺留空氣トノ和補氣(complementary air): 肺中容量ノ位置カラ最深吸氣ヲ行フ場合ニ吸入サレル空氣量

(抄者記。但普通ノ定義テハ正常吸氣時以後ニ最深吸氣ヲ行フ場合ニ吸入サレル空氣量ヲ意味スル事ニナ

ツテ居ルが、著者ノ定義ガ之ヲ意味スルトハ定義ノ上カラハ思ヘナイ。

貯氣(reserve air): 肺中容量ノ位置カラ最強呼吸時迄ニ排出サレル空氣量

X線の胸腔容積ノ測定ハ一枚ノ「フィルム」ニ最強呼吸時ト最深吸氣時トヲ二重ニ寫シテ大體ハハータート及フレイノ方法ニ從ツテ行ツタ。

其結果ハ次ノ如ク要約サレル。即 50 歳代及 60 歳代ノ健康男子ニ於テハ肺容量ノ絶對値ガ非常ニ區々ニナツテ居ル。肺活量及肺全容量ト最深吸氣時X線の胸腔容積トノ間ニハ密接ナ關係ガアル。即チ兩者ノ間ノ相關係數ニ依ツテ胸腔容積ノ價カラ正常肺容量ヲ豫示スル公式ガ作成サレテ居ル。

肺全容量(立) = $(0.31 \times X$ 線の胸腔容積) + 0.71

尙細別ノ價ハ肺全容量ニ對スル平均相對關係ニヨツテ全容量カラ誘導スル事ガ出來ル。之ト前述實測値トヲ比較スルニ肺全容量實測値ハ總テノ例ニ於テ、又肺活量ハ 98%ニ於テ計算値ノ 20%以內ノ動搖ヲ以テ一致スル。之以上ノ差ハ正常トハ言ヘナイ。又肺中容量及遺留空氣ニ於テハ 40—50%以內ノ動搖ヲ以テ正常トセネバナラナイ。肺活量、遺留空氣及肺中容量ヲ全容量ノ百分率テ表スト或一定範圍内テ動搖スルモノテアル。例ヘバ遺留空氣ガ肺全容量ノ 40%以上テアル場合ハ正常トハ言ヘナイ。

臥位テ測定スルト坐位ニ比シテ肺全容量、肺活量及遺留空氣ハ僅ニ減ジ、貯氣ハ相當減少スル。之ト反對ニ補氣ハ相當増加スルノテアル。

ホールデン及プリーストリーノ公式ニ從ツテ、呼吸氣量(tidal volume)及共空氣中竝ニ肺胞氣中ノ炭酸瓦斯量ヨリ算出セル呼吸死腔(respiratory dead space)ト呼吸氣量トノ間ニハ一定ノ關係ガアル。呼吸死腔ト呼吸比トノ間ニハ關係ガ無イ。之ハホールデンノ研究ヲ裏書スルモノテアル。

胸腔擴大度ハX線寫眞測定法ニヨツテ最も良ク決定スル事ガ出來ル。即、最強呼吸時面積ノ最深吸氣時面積 $\times 100$ ナル價ガ 71 以上ニシテ、最強呼吸時ト最深吸氣時ノ間ノ肋骨ノ運動ガ 9°以內ナラバ、胸腔擴大度ハ異常ニ小サイト考ヘテ良イ。

年齢ノ影響トシテハ 30 歳代カラ 80 歳代ヘカケテ肺全容量及肺活量ハ漸次減退シテ行ク。遺留空氣量ハ 55 歳迄ハ變化シナイ様テアル。胸腔擴大度モ亦年齢ト共ニ減退スル。(宇多野 内藤抄)

7. 非乾酪化性結核。文獻ノ檢討

Max Pinner: Noncaseating Tuberculosis. An analysis of the Literature. (紐育州イタカ市ハーマン・エム・ビックス記念病院研究室)

非乾酪化性結核ノ代表的ナ者トシテベック氏「サルコイド」、類囊腫性多發性結核性骨炎、(ostitis tuberculosa multiplex Cystoides). 虹彩耳下腺性熱 (uveoparotid fever). ミクリツ氏症狀群ノ或場合及播種性肺臓竝ニ淋巴腺病竈ノ或者ガアル。以下是等ノ文獻ニ就イテ次ノ二問題ニ關スル事實ト觀察ノ檢討ヲ試ミントスルモノテアル。

1) 是等ノ疾患群ハ本質ハ等シクテ唯單ニ同一疾患經過ノ異ル現レ方テアルモノカ?

2) 是等ノ原因ハ總テ結核菌ニアリ、其發生ハ結核ト言フ疾患ノ個々ノ特殊ナ經過相ニ過ギナイノテアルカ?

ベック氏「サルコイド」

本疾患ハ 1899 年ベックニ依ツテ初メテ記載サレ、或ハ多發性良性「サルコイド」、多發性良性「ルポイド」、「サルコイド」症、ベック氏病、ベズニア氏病、ハッチンソン氏病、モルチマー氏病、シャウマン氏病、粟粒性「ルポイド」、「ルポイド」性硬化性結核(ベック氏型)、良性「リンフォグラヌマトーシス」等ト呼バレテ居ル。

病竈ノ分布: 殊ニ皮膚ニ現レル事ガ屢クテハアルガ、診斷ハ生體切片檢鏡ヲ俟ツテ確定サレル。其他侵サレル臟器トシテ指摘サレタ者ニハ鼻腔、咽喉及結膜ノ粘膜、横紋筋、乳腺、膝關節、副腎丸、大腸、眼瞼、末梢神經(但之ハ疑ハシイ)、虹彩、涙腺、唾腺等ガアルガ、殊ニ好發スルハ淋巴腺、骨及肺臓テアル。

肺臓ニ來タ場合ノX線像ガ必ズシモ一定テナイ事ハ純X線のニ粟粒結核、粟粒性癌腫症、瀰漫性非特異性結締織症、結核後ノ結締織症及肺充血トノ鑑別ガ問題ニナル事カラ想像出來ルテアラウ。勿論X線文ケテ診斷ハツカナイ。解剖學的變化ノ著シイニ比シテ自覺症狀及理學的所見ノ乏シイ事ハ診斷ノ大キナ據リ所ニナル。確實ナ診斷ハ剖檢ニ依ルカ、或ハ生體切片檢鏡ニ依ル外ハナイ。但特殊ナX線所見及理學的症狀ガアリ、類囊腫性骨病竈、虹彩炎ガ見ラレ、「ツベルクリン・アレルギー」ガ低ク、「モノチーテン」増加症ガ認メラレル場合ハ相當確實ナ診斷ガ下サレ得ル。肺臓「サルコイド」ハ必ズシモ皮膚症狀ヲ伴フトハ限ラ

ナイト言フ事ハ心得テ置カネバナラナイ。

組織學的所見：淋巴球ノ薄イ層ニ圍マレテ上皮細胞ガ集ツテ居リ、其中ニ時ニラングハン氏巨大細胞ヲ見ルモ、壞死及乾酪化ヲ見ナイ事、滲出性變化及多核白血球ノ存シナイ事ヲ特徴トスル。但之ハ病竈ノ中期ノ像デアツテ、初期ニハ淋巴球ヲ主トスル炎症性滲出ヲ呈シ、後期ニハ肉芽組織ヲ生ジ、最後ハ癩痕化スル。

剖檢所見：18例中8例ニ於テ本疾患ガ死因ト思ハレタ。肺臟「サルコイド」ハ結局結締組織増殖ヲ來シ、肺氣腫ヲ來サシメル。

18例中4例ニ於テハ肺結核ガ死因ヲナシテ居ル。是等ノ所見ニ依ツテ著者ハ「合併セル乾酪化結核ハ「サルコイド」ノ直接變形デアツテ、他ヨリ加ハレル別ノ疾患經過デアハナイ」と言フシヤウマンノ意見ヲ確證スル事ガ出來タノデアアル。

細菌學的検査：生體切片カラ動物實驗テ結核菌ヲ證明シ得タ事ハ稀ニシカナイ。カイルニヨルト、最初期ニハ病竈ニ發見シ得ルガ菌ハ直ニ殺サレテシマフノダト言フ。

血液學的検査初期ニハ「モノチーテン」増加症ガ見ラレル。二次的ニ肺臟結締組織化ガ起ルト赤血球増加症ガ起ル。

「ツベルクリン」反應：大多數ニ於テ陰性或ハ低イ事ガ特徴デアアル。

合併症：虹彩毛様炎、耳下腺腫脹、虹彩耳下腺熱、涙腺腫脹、ミクリッツ氏症狀群等ヲ見ル事ガアル。結核ハ10%位ニ認メラレル。普通ノ結核ガ發展スルト本疾患ハ自然ニ而モ速ニ治癒スルヲ常トスル。

類癭腫性多發性結核性骨炎

(*ostitis tuberculosa multiplex cystoides*)

本疾患ハ1919年ユングリニヨツテ初メテ記述サレタ骨疾患デアツテ好發部位ハ指骨、趾骨、掌骨、蹠骨デアアル。三者ハ明ニベック氏「サルコイド」ノ一ツノ像ニ過ギナイ。

虹彩耳下腺熱(uveoparotid fever)

1909年ヘルフォルトニ依ツテ耳下腺炎カラ獨立シテ記述サレタ本疾患ハ非常ニ稀ナ疾患デアアル。

組織學的所見：生體切片檢鏡ハ虹彩、耳下腺或ハ淋巴腺ニ就イテ行ハレル。所見ハ大體ベック氏「サルコイド」ト似テ居ル。即チ臨牀的ニ活動性ノ時期ニハ淋巴球層ノ中ニ上皮細胞ト巨大細胞トヲ認メ、乾酪化ヲ見

ズ、後ニハ圓形細胞浸潤組織ノ著明ナル硬變ト收縮トヲ見ル。本疾患テ最モ屢ニ腫大スル淋巴腺ハ肺門部、頸部及鎖骨上部ニ位スルモノデアアル。

剖檢時所見：剖檢例ガ3例アルガ、肺臟其他ニ乾酪化病竈ヲ見ル事モアル。

細菌學的検査：病竈カラ結核菌ヲ發見シ得タト言フ報告ガ今迄ニ4例シカ無イ。

合併症：肺臟病竈所見ハ大體ベック氏「サルコイド」ニ等シイ。皮膚ニハ結節性虹斑ヲ見ル事ガアル。時ニ涙腺ガ腫脹スル。相當ナ率ニ於テ普通ノ結核ヲ見ル。ベック氏「サルコイド」或ハ類癭腫性多發性結核性骨炎ト合併セルヲ見タ報告モアル。

「ツベルクリン」反應：大部分ハ陰性デアアル。

血液學的検査：「モノチーテン」増加症ヲ見ル事ガアル。

其他ノ分類サレテ居ナイ非乾酪化性結核。以上ノ分類以外ニ同様ナ非乾酪化性結核ガ各種臟器ニ認メラレル場合ノアルノハ當然デアアル。

ミクリッツ氏症狀群

本疾患ハ1888年ミクリッツニヨツテ初メテ「涙腺ト唾腺ニ特ニ對稱性ニ起ル疾患」トシテ記載サレタモノデアアル。之ハ單一病因ニヨルモノデアハナイガ、一部ハ確ニ非乾酪化性結核ト考ヘラレル。

考 察

著者ハ以上ノ文獻ヨリ考按シテ是等ノ疾患ガ同一ノ原因ト形態トヲ持ツ者ナル事ヲ認メテ居ル。其根據トシテ次ノモノガ舉ゲラレル。

- 1) 同一ノ組織學的所見ヲ持ツ。
- 2) 何レモ大多數ニ於テ「ツベルクリン」陰性デアアル。
- 3) 臨牀的病像ニ相似ノ點ガ多イ。
 - a) 播種性肺結核及氣管氣管枝淋巴腺腫脹
 - b) 末梢淋巴腺病竈
 - c) 類癭腫性骨病竈
 - d) 慢性經過
 - e) 病狀ノ少イ事
 - f) 活動期ノ「モノチーテン」増加症

次ニ是等ノ疾患ノ原因ガ結核デアアルト思ハレル根據トシテハ次ノ者ガアル。

- (イ) 結核菌ノ證明：結核菌ガ病竈部位ニ見出サレル事ハ稀ニシカナイガ、之ハ免疫狀態ニ因ルモノテ不思議ハナイ。
- (ロ) 組織學的所見：結核ノ或時期ノ像ニ一致ス

ル。

- (ハ) 此型カラ普通ノ結核ニ變化スル事ガアル。
 (ニ) 大部分「ツベルクリン」陰性ナル。之ハ一見逆説的ナ言ヒ方ナルガ、此陰性ハ本疾患ノ本質ヲ物語ルモノデ、返ツテ其原因ガ結核ニ存スル事ヲ意味スルト著者ハ考ヘル。
 (ホ) 普通ノ結核ガ發展スルト「サルコイド」病竈ハ消退スル。
 (ヘ) 血清學的検査成績(「アンチクナン」及「プロクチン」ノ存在)
 (ト) 結核性疾患或ハソレト思ハレル疾患ガ同時ニ

或ハ續イテ起ル事。

- (チ) 人間ノ「サルコイド」ト或種ノ動物ノ結核ガ非常ニヨク似テ居ル事。

即非乾酪化性結核ト呼ブ疾患ハ結核ノ或特殊ナ經過相デアツテ、常ニ増殖性ナル事、反復血行性播種ニ因ツテ起リ、殊ニ肺臟、淋巴組織、小骨、腺及虹彩ヲ好發部位トナス事、解剖學的變化ニ比シテ症状ノ少イ事、比較的慢性ニ經過スル事及「ツベルクリン」陰性ニ傾ク事ヲ特徴トスル疾患デアル。

(宇多野 内藤抄)

一般學術雜誌

赤血球沈降反應ニ依ル結核性胸部疾患ノ早期發見法ニ就テ

矢可部軍司、川田啓介(海軍軍醫會雜誌第 27 卷第 8 號、昭和 13 年 8 月)

著者ハ結核性胸部疾患ノ早期發見法トシテ從來先輩諸家ニヨリ體溫、體重、肺活量等ノ測定、集團の檢痰、胃洗滌結核菌證明法「ツベルクリン」反應、補體結合反應等種々研究セラレタルモ艦船部隊ヲ主トスル海兵ニトリテハ孰レモ一長一短アリテ、今日尙研究ノ餘地大ナルモノアルヲ痛感セザルヲ得ズト述べ、昭和 12 年度第一艦隊長門乗員ニ就キ赤血球沈降反應ニ依ル早期發見法ヲ試ミ結核性胸部疾患早期發見法ニ最モ合理的且效果の理想的の發見法ナリト認ムト結ビ、結核性胸部疾患ノ既往歴ヲ有セザル一、二、三等兵 818 名及同既往歴ヲ有スル下士官兵 15 名計 833 名ニ就キ實施シ、次ノ結論ヲ得タリト。

- 1) 第 1 回 S. R 検査ニ就テ S. M. R. 8 m.m 以上ヲ示セル者 159 名(19.09%)内無既往歴者 150 名(19.07%)有既往歴者 3 名(20.0%)ナリ。
- 2) 第 1 回 S. R 検査ニ於テ 8 m.m 以上ヲ示セル 159 名中ノ乃至 1 週後ニ施行セル第 2 回 S. R 検査ニ於テ 8 m.m. 以上ヲ示セルモノ 37 名(4.14%)ニテ内無既往歴者 34 名(4.16%)有既往歴者 3 名(20.0%)ナリ。
- 3) 第 2 回 S. R 検査ニ於テ S. M. R 8 m.m 以上ヲ示セル 37 名中結核性胸部疾患ノ容疑者ト認ムベキモノハ 35 名(3.91%)ナリ。
- 4) 結核性胸部疾患ノ容疑者ト認ムベキ 35 名中 9 名(1.08%)ノ結核性胸部疾患(胸膜炎 1. 慢性氣管枝炎

2. 肺炎炎 1. 肺浸潤 3. 肺結核 2) ヲ發見シ其他診定スルニ至ラザルモノレ線寫眞ニ依リ、輕微ナル胸部ノ結核性病變ヲ證明セルモノ 9 名(1.0%)ヲ認メタリ。

5) 發見セル結核性胸部疾患患者 9 名中無既往歴者 7 名(0.85%)有既往歴者 2 名(13.33%)ニシテ孰レモ第 2 回 S. R 検査後發見シ内 4 名ハ發見後 1 ヶ月乃至 4 ヶ月半ニシテ送院セリ。

6) S. R 検査ニヨル早期發見法ニ依リテ胸膜炎ヲ除ク結核性胸部疾患ニアリテハ、完全ニ早期發見ノ目的ヲ達成セリ。

7) 本研究ニ基ヅキ S. R 検査ニ依ル結核性胸部疾患早期發見法ノ實施法ヲ提唱ス。(第 5 章第 2 節參照)

(東京療養所 川上抄)

海軍下士官兵肺結核症空洞ノレントゲン學的研究
 菅田直樹(海軍軍醫會雜誌、第 27 卷第 11 號)

著者ハ昭和 6 年ヨリ同 12 年ニ至ル期間肺結核症ヲ以テ吳海軍病院ニ入院セル海軍下士官兵ノ胸部「レ」線寫眞 1202 枚ニ就テ研究セリ。其成績次ノ如シ。下士官ハ兵ヨリ空洞發見頻度少シク大ニシテ、全體ニテハ右肺ニ最モ多ク、左肺之ニ次ギ兩肺ニ見ラルルモノ最少ナリ。1 個ノモノ最モ多シ。

右肺ニ於テハ第 1 肋骨ノ下線ヨリ第 2 肋骨下線ニ至ル部分ノ内側ニ最モニシテ左肺ニ於テハ其外側ニ最モ多シ。其形狀ハ圓形最モニシテ、大サハ 2 cm 以下ノモノ最モ多シ。空洞及其周圍狀況ハ滲出性及 massive Schatten ハ右肺ニ多ク、環狀形及癒著性ハ左肺ニ多シ。灌漑氣管枝ハ左肺ニ多ク見ラレ、空洞内滯留像ハ左右同一ナリ。空洞携帶者 138 例ノ豫後ニ就テ調べ

ルニ在院中死亡者 32 例、退院後死亡ハ 56 例ニテ最多ナリ。空洞部位トノ特殊關係ハ認ムルコト能ハズ。大サトノ關係ハ大空洞ヲ有スル者ハ大體豫後不良ナリ。又空洞及其周圍ト豫後トノ關係ハ顯著ナルモノヲ認メ難シト。
(東京市療 相澤一抄)

結核菌證明方法トシテ集菌法竝ニ培養法ヲ検討ス

—余ノ簡便ナル集菌法—

曾我耕策 (東京醫事新誌、第 3097 號、昭和 13 年 8 月 20 日發行)

著者ハ(1)肺結核及ヒ喉頭結核患者ノ喀痰、肋膜炎穿刺液、腎臟結核患者尿等ヨリ結核菌ヲ證明スル方法。(2)結核菌培養證明ノ吟味ニ就キテ次ノ如キ實驗ヲ行ツタ。

(1) 結核菌ノ證明方法

著者ハ 50 例ノ肺及喉頭結核患者ノ喀痰、肋膜炎穿刺液、腎臟結核患者尿ニ就キテ、(a)直接塗抹染色、(b) Hill 氏ノ硫酸「バリウム」法。(c)「クロ、ホルム・アンチホルミン」法。(d)著者ノ方法ヲ比較シテ著者ノ方法及 Hill 氏ノ硫酸「バリウム」法ガ最も優レ居ルモ、著者ノ方法ハ Hill 氏ノ方法ニ比シテ簡便ニシテ甚ダ實際ニ則シタルモノナリト云フ。其方法ヲ原著ノママ記スレバ次ノ如シ。著者ノ集菌法。原理ハ Kaolin ヲ Antiformin 溶液中ニ浮游セシメ此 Kaolin-antiformin 液ヲ以テ材料ヲ均等化シ、結核菌ヲ Kaolin ニ吸著セシムルナリ。

(2) Kaolin-antiformin 液ノ製法

粗製ノ Kaolin ヲ水ニ溶カシ圓筒ニ入レテ靜置 24—48 時間後ノ上層ノ(浮游セル) Kaolin ヲ細管「ピペツト」ニテ採取シ、コレヲ適當ノ濃度ニ稀釋(遠心沈澱シテ極ク少量ノ沈渣ガ出來ル程度テ Nephelometer ノ 0.5—0.5 位)コレヲ以テ Antiformin ヲ所要ノ「プロセント」ニ作ル、10—30%ガ最適。

(3) Kaolin-antiformin 液 10 是對シテ可檢材料 2 ノ割合ニ加ヘテ振盪ヨク均等化スル(加温スルコトニ依リ均等化容易)

(4) 遠心沈澱(1000 廻轉 5—10 分間)

(5) 沈渣ヲ塗抹、乾燥、染色、鏡檢。

結核菌培養證明ノ吟味

(1) 硫酸處置法ト各種培養基トノ關係

純粹培養結核菌乳劑ヲ 0.5—20%ノ硫酸ヲ 30 分間處置シ洗滌スルコトナク各種培養基ニ接種スルト 0.5% 及ビ 1%ニ於テハ對照ト變リナク、7.10 日ニテ聚落

ヲ認メ得ルモ 15%ニ於テハ 3 週間以上ヲ要シタ。

又 Antiformin ニ於テハ 1%、2%ノ低濃度ニ於テモ殆ンド結核菌ノ發育ヲ示サナカツタ。

Petroff, Hohn, Petraghani, Loewenstein, ノ培地テ 5%硫酸ヲ分離培養ヲ行ヒ細菌ノ發育阻止及ビ結核菌發育状態ヲ實驗セシニ Petraghani, Loewenstein ノ培地ガ優秀ノ成績ヲ示シタ。塗抹檢鏡ノ結果陰性ノモノニ就テ、集菌法(Hill 氏法及ビ著者ノ方法)ト 5%硫酸處置法ニ依リ Petraghani, Loewenstein. ニ培養シタルモノト其陽性率ヲ比較スルト集菌法ハ實際ニハ簡便テ陽性率ノ高イ點テ優秀ナル方法テアルガ單ニ菌檢出率ニ就テ比較スルトキハ操作ト時間的ノ困難ハアルガ培養證明ノ方ガ優ニ高イ菌檢出率ヲ示シタ。
(東京市療 小林抄)

BCG 接種動物ノ「ツベルクリン・アレルギー」ト結核免疫能力ニ就テ

吉田長之 (東京醫事新誌、第 3097 號、昭和 13 年 8 月 20 日發行)

著者ハ「ツベルクリン」反應陰性ノ海狸—BCG 1.0mg ヲ皮下ニ注射シ約 6 ヶ月後「ツベルクリン」反應ヲ檢セシニ此試獸ノ大部分ハ「ツベルクリン」反應陰性トナツテ居タ。次テ此 BCG 初感染ヲ行ヒタル「モルモット」及ビ對照トシテ新シキ「ツベルクリン」反應陰性ノ「モルモット」ニ人型菌「フランクフルト」株 0.01mg 宛ヲ皮下注射シ約 6 ヶ月後之ヲ撲殺剖檢シテ BCG ノ豫防ノ效力ヲ檢シタリ。

實驗成績ハ BCG 處置群ニ於テハ何レモ肺臟、肝臟、腎臟等ニハ殆ンド結核性變化ヲ肉眼的ニ認メ得ザルニ對照無處置群ニ於テハ各臟器共結核性病變極メテ高度ナリ。上ノ實驗ニ依リ次ノ結論ヲ得タリ。

BCG ノ豫防ノ效力ハ「ツベルクリン」反應陰性轉化後モ著明ニ存ス。サレバ「ツベルクリン・アレルギー」ト結核免疫トハ必ズシモ並行關係ニ在リト言フヲ得ズ。即チ BCG 結核「ワクチン」接種後、相當期間ヲ過ギテ、「ツベルクリン」反應陽性ナリシモノガ、陰性ニ轉化スルモ結核免疫能力ナシト速斷スルコト能ハズ、尙相當期間免疫能力アルコトハ確實ナリ。

(東京市療 小林抄)

BCG 免疫性ニ及ボス「ヒヨロステリン」供餌ノ影響

川口弘 (東京醫事新誌、第 3104 號、昭和 13 年 10 月 8 日發行)

著者ハ豫メ「ツベルクリン」反應陰性ナルコトヲ確メ

タル家兎ニ BCG 10mg ヲ皮下ニ接種シ第 23 日ニ「ツベルクリン」反應ヲ檢シ陽性轉化シタルコトヲ認メタル後之ヲ二群ニ分チ、第一群ハ「ヒヨロステリン」飼群トシ第二群ハ BCG 處置ノミノ群トナセリ。第一群ニハ最初ノ 7 日間 1 日量ハ「ヒ」0.3g 宛次ノ 7 日間ハ 1 日量 0.5g 宛ヲ經口のニ與ヘ免疫後 54 日目ニ牛型結核菌 1mg ヲ皮下ニ接種シテ再感染ヲ行ヒ感染後モ隔日ニ「ヒ」ヲ經口的ニ 1 日量 0.2g ヲ剖檢時迄與ヘ總量 20.6g ノ「ヒ」ヲ一頭ニ與ヘタリ。

第二群ハ BCG 免疫後處置ヲ加ヘズ 54 日目ニ牛型結核菌 1mg ノ再感染ヲ行ヒテ剖檢時迄處置ヲナサズ。第三群對照群、トシテ免疫處置ヲ施サルル家兎ニ 1mg ノ牛型結核菌ヲ皮下ニ接種シタ。

右三群ヲ感染後 150 日目ニ剖檢セシ成績ハ内臓ノ結核性變化ハ對照群最モ強ク現レ。BCG 免疫後「ヒ」ヲ投與シタル第一群ハ之ニ次ギ、BCG 免疫後處置ヲ施サトリシ第二群ハ病變甚ダ輕度デアツタ。上ノ實驗ニ依リ著者ハ次ノ如ク結論シタ。

BCG 免疫家兎ニ「ヒヨロステリン」ヲ投與シテ再感染ヲ行ヒ其後モ連續的ニ剖檢時迄「ヒヨロステリン」ヲ投與シクガ「ヒ」投與群ニテハ BCG ノ免疫性ノ甚シク失墜シタル状態トナツタ。(東京市療 小林抄)

喉頭結核患者流血中結核菌ノ培養ニ依ル證明ニ就テ 植田三郎(東京醫事新誌 No. 3101)

著者ハ喉頭結核症ノ成因ガ、肺ノ原發竈カラノ血行性撒布ニ基ク二次的發病ナル説ガ有力ニ支持セラレテキル點カラ見テ、結核菌菌血症ノ研究ニハ極メテ好適ノ検査材料ナリトシ、60 例ノ喉頭結核患者ノ血液カラ、Löwenstein 法、Kovács 法、及ビ Besredka 培地法ニ依ツテ結核菌ノ培養ヲ試ミ、Kovács 法ニ依ツテ 3 例(5%)陽性、他ハ陰性ノ成績ヲ得テキル。

結核又ハ「チフテリー」ト誤診サレタル氣管枝異物ノ 2 例 原良太郎、龍治好道

著者ノ經驗セル第 1 例ハ、6 歳ノ男子テ、異物嚥下後

暫クシテ呼吸困難ハ去ツタノデ、肺門淋巴腺結核ト誤診サレテ約 3 ヶ月治療ヲ受ケ、後異物(留金)摘出ニヨリ全治シタ。第 2 例ハ 1 年 8 ヶ月ノ男子テ、初メ呼吸困難ノ爲「チフテリー」ト誤診サレ異物(目刺ノ椎骨)摘出ニヨリ全治シタ。以上ノ二症例カラ著者ハ、氣管ノ異物が氣管枝ニ侵入シタ後ニハ屢々症状ガ輕微トナルタメニ、往々他ノ呼吸器系疾患ト誤診サレル事ガアル故ニ注意ヲ要スルト強調シテキル。

(東京市療 平野抄)

鶏ノ足蹠膿瘍ト結核

Ludwig Hepding: „Ballenabszess des Huhnes“ und Tuberkulose. (Deutsche Tierarztl. Wschr. 1938. Nr. 38.)

臨牀的ニハ足蹠腫瘍ト言ハレ屢々見ルモノニシテ、原因ハ機械的作用ニ化膿菌ノ感染セルモノトス。然シ皮膚結核ナリト言フ者、食餌ニ關係アリトナス者等アリ。Lüttschwager ハ病竈ヨリ多數ノ抗酸性菌ヲ證明シ結核ニ關係アリトセルモ臟器ニハ變化ヲ見出サズ。Bunyea ハ菌ヲ培養セントシテ果サズ、種々動物實驗ヲナシ、「マウス」ニ化膿性空丸炎ヲ、鶏ノ足蹠ニ接種シ抗酸性菌ヲ得タ。

著者ノ經驗ニ依ルト膿瘍ハ破レ自然治癒スルモノ少數ニシテ、治療スルモ尙惡液質ニ陥リ死スルモノ多シ。細菌検査ニテ白色葡萄狀菌ヲ得、更ニ結核菌培養基ニ依リ鳥型結核菌ヲ得タ。此ノ培養セル菌ヲ以テ動物試驗ヲナスニ、經口的ニ鶏ニ與ヘ廣汎ナル部ニ粟粒結核像ヲ證明ス。家兎ニ皮下及ビ靜脈内接種シ各臟器ニ粟粒結核ヲ招來シ、海狸ニテモ同様全身結核ヲ起ス、更ニ鶏ノ足蹠ニ接種シ局所ノ變化及ビ肝臟粟粒結核ヲ證明ス。自然感染ニテハ少量ノ菌ノ侵入アリテ惹起サレ、慢性ノ經過ヲトリ症状ハ輕度ニシテ内臓ニ結核性變化ヲ來サルモノト思ハル。組織學的ニ自然感染モ、實驗的感染モ大ナル差異ナキモ、實驗的ニナセル場合ハ細胞ノ退行變性強シ。(北研 野中抄)